工兵第五十六連隊略歷

年月日	概要
昭一五、八、一	軍令陸乙第五八一号に依り工兵第五十六連隊新設
一六、一二、一五	軍令陸甲第八五号に依り工兵第五十六連隊臨時編成下令同年同月二十二日編成完結
自昭一七、三、一四 至一七、三、二六	屯営出発より緬甸「ラングーン」上陸
二、一一	出陣式挙行
二、一三	師団長代理参謀長藤原大佐臨場の下に軍容検査施行
二、一四	屯営出発同月十五日及十六日門司港出帆
三、二	仏印西貢上陸対蘇訓練実施
三、十	西貢出帆
三、二六	緬甸「ラングーン」に上陸
自 三、二六	「サルウイン」河々谷進出作戦
至 四、一四	
三、二六	「ラングーン」上陸と同時第三中隊一小隊を先遣隊長平井大佐の指揮に入らしむ。
三、二九	「ラングーン」出発「トングー」に於て「シッタン」河架橋

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一七、三、三一	架橋完成
四、一	「トング」出発先遣隊の直後を「ケマピュ」に向い前進、師団主力進路啓開に任じ同月十二日「ケマピュ」に進出
自 四、一五	「モチレ」附近に於て交戦准尉一、兵一、戦死す。
至 四、二九	「ペサウン」より「ラシオ」に向う進撃作戦
四、一六	歩兵第一四八連隊第一大隊（一部欠）を指揮下に入れ「ザヤラト」附近に於て交戦、兵一名戦死す。
四、二九	一小隊を先遣隊に配属主力は師団主力の進路啓開に任じ「ラシオ」に入城す。
自 四、三〇	「ラシオ」怒江「ミットキナー」に向う追撃作戦
至 五、一五	「ラシオ」出発先遣隊に先んじて「ミソトキナ」前進「ミヨチット」「メコン」
四、三〇	「カズ」等大小数十の橋梁堰堤
五、一〇	「メンカン」に集結、同地の警備に就く
五、一	第一中隊隷下に復帰引続き坂口支隊となり、怒江に前進
五、六	一小隊を龍陵に残置、主力は騰越に前進す。
自 五、一六	怒江右岸追撃戦及残敵掃蕩
六、一〇	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
四七 五 五	「ナンカン」附近警備交代龍陵に転進
五 三	同地到着、
	龍陵守備となる配属中の 1/561 を原所属に復帰せしむ
五、二四	龍陵東北北側高地に於て交戦下士官二 兵七戦死す
五 二六	第二中隊兵団直轄となる
六 三一	撤攻案及び騰越南地区掃湯戦
七 三	第一中隊（以後は）六月下旬坂口少将の指揮を脱し竜陵に集結す
六、四	より龍陵龍頭街間自動車道構築第三中隊一小隊を「タンロン」警備隊に配属す
八 三一	怒江右岸地区掃蕩及び警備
	道路構築続行

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一七、八末	龍陵龍頭街間自動車道完成
八、下旬	二ケ小隊を怒江右岸地区掃蕩戦に参加せしむ。 近衛師団第二十一架橋材料中隊の一部下田軍曹以下十八名指揮下に入らしめらる。
自九、一 至一二、三一	第二中隊一小隊を騰越警備隊に配属す。 騰越「クンロン」及平戛地区討伐並警備 道路構築統行
自一二、一 至一三、三一	討伐戦に第二中隊を歩兵第一四八連隊へ、第三中隊を歩兵一四六連隊へ配属 本作戦中下士官一、兵五戦死す。 占領地区確保並対空戦斗及甲号粛清討伐戦
自一二、一 至一三、三一	龍陵騰越道自動車道改修作業統行 第二中隊を歩兵第一四八連隊へ第三中隊を歩兵第一四六連隊へ配属甲号粛清討伐に参加本討伐間兵二戦死す。
自四、一 至九、三〇	緬甸防衛及次期作戦準備 道路構築統行

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

六、二一	孟定地区討伐戦開始せらるるや主力を以て「クンロン」附近「サルウィン河」渡河作業を実施
九、一五	第一中隊を本討伐戦間歩兵第一四六連隊に配属す。
自十八、一〇、一	龍陵騰越道概成
至一一、三〇	怒江作戦
一〇、五	第一次怒江作戦 行動開始第一中隊一小隊を歩兵第一四六連隊第二大隊に第三中隊の一小隊を同連隊主力に配属、主力を以て曲石江右岸地区に進出、歩兵一四八連隊第二大隊を渡河援護隊として指揮下に入れ
一〇、二五	日没時師団主力の渡河に任ず。 渡河終了後第二中隊を歩兵第一四八連隊に配属主力は騰越、瓦甸、橋頭街及固東街道応急自動車道の構築に任ず。
二、上旬	第二次怒江作戦 第二中隊を歩兵第一二三連隊に配属主力は前任務を続行す。
自二、一	本作戦間兵二、戦死す
至一九、七、五	ウ号支作戦並遠征軍反撃作戦 騰越干崖間自動車道構築三月十五日完成
三、二七	歩兵第一四六連隊北緬に転進第一中隊一小隊を第二大隊に配属 第二中隊を連隊主力に配属す。又第一中隊一小隊を Ⅲ/131 に配属す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭五、四、二一	第三中隊を残置し連隊長の指揮する二小隊及器材小隊を以て「バーモ」方面に前進次で第二中隊を併せ指揮し、今回支隊の「ミワトキナー」に向う進路の啓開に任じ引続き同地に対する軍需品の緊急輸送の為、独立自動車第六十一大隊に協力、公路の確保に任ず。此間歩兵団長水上少将の指揮を受く。
四月上旬	水上兵団「ミツトキナー」に前進、第一中隊を其の指揮下に入る爾後「バーモ」に位置し、同地の警備隊となる。
四、二六	「バーモ」警備を交代同地出発龍陵に前進
二八	到着引続き騰越に前進師団主力遠征軍反撃作戦に参加
五、二九	龍陵に集結す。
自六、一〇 至六、八	第一次龍陵決戦に於て下士官、兵三五名戦死す。
四、二九	配属中の近衛師団第二十一架橋材料中隊の一部原所属に復帰せしむ。
自一九、七、六 至十、五	断作戦第一期
七、六	龍陵守備隊となる指揮下部隊左の如し
	龍陵守備隊長　小室中佐　　龍陵憲兵隊
	工兵第五十六連隊主力　　同野戦倉庫
	歩兵第一一三連隊第三大隊主力　　同行政班

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

	歩兵第一四六、第一四八連隊の一部	第五十六師団工兵隊の一部
	歩兵第二九連隊第二大隊主力	
	歩兵第六七連隊第三中隊主力	
	歩兵第二九連隊第一大隊主力	
	野砲兵第五十六連隊第三大隊の一部	
七、一三降	敵戦車続	
八、二四	歩兵第一四八連隊第二大隊龍陵到着守備隊長の指揮下に入る。	
九月上旬	第三十三軍司令部龍陵に進出第五十六師団及第二師団龍陵附近に於て交戦	
九、一五	第五十六師団転進に伴い守備隊は第二師団長の指揮に入る尓後対車	
一〇、一五	第二師団転進に伴い歩兵第一四六連隊長今岡大佐の指揮に入る。	
九、七	拉孟玉砕　森本軍曹以下七名戦死す。	
九、一四	騰越玉砕　宮本軍曹以下十三名戦死す。	
九、一八	守備隊長戦死	
	本戦斗間将校三名、下士官、兵二〇五名戦死す。	
九、一五	第二中隊野見山大尉以下三十有余名帰還	
九、二〇	第一中隊桑野大尉以下六名帰還せり。「フーコン」及「ミットキナー」戦斗間将校三名下士官兵約百名戦死、下士官兵二十七名生死不明	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
自昭一九、一〇、六 至 一三、二	断作戦第二期
	龍陵守備隊となり依然戦斗続行
一二、三	命に依り龍陵撤退
一二、五	今岡大佐の指揮を脱し兵団直轄となり第一、第二中隊を合し桑野大尉連隊長代理となり、其の指揮を執る。
一二、一九	芒市附近撤退交通路の遮断及後方兵站線の確保に任ず。
自 一二、二二 至 二、二〇	断作戦第三期及第四期
一二、下旬	師団主力畹町附近に集結、連隊は主力を以て第一線陣地構築各一部を後方公路主要橋梁の確保に任ず
一月末	畹町撤退に伴い「メンパラカ」附近公路の確保を命ぜられ師団主力に先行同地要点大義台を占領交戦数日に及び師団主力の転進を容易ならしめ引続き公路上の阻絶団主力の抵抗陣地を構築、二月十二日「ラシオ」に集結す。
	「ナンパツカ」附近戦斗に於て第三中隊長有川中尉以下十九名戦死す。
二、二三	「ラシオ」撤退に伴い謙山橋及飯田橋の確保及歩兵第一二三連隊の「ナムタ」撤退に伴う渡河作業に任じ爾後公路の破壊阻絶等を実施し「ホホン」附近に転進す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自昭二〇、四、一〇

五、一九　克作戰第一期第二期

「カロー」「タウニギー」「ホーポン」「ロイレム」道の確保

五、二五　第三中隊を「カロー」に派遣道路の破壞及第一線の戰斗に協力せしむ。

「ヤンフエ」附近に集結　師團經理勤務班及防給の一部を併せ指揮し「メンピル」河に依る患者及軍需品の水路輸送に任ず。

六、六　「ロイユウ」に集結配屬部隊を隷下に復し、新に第九師團第一架橋材料中隊及第百二野戰道路隊を指揮下に入らしめられ菊兵橋以南「ケマピユー」泰緬國境間道路の確保並「ケマピユー」附近「サルウイン」河渡河作業に任ぜり

第三中隊を一時池田大佐の指揮に入れ糧抹及軍需品水路輸送に任ぜしむ。

六、一〇　第一中隊を「モウケ」に派遣歩兵第一一三連隊長の指揮に入らしむ。

本作業間准士官二名、下士官以下一名戰死

昭和二十　年八月十四日停戰

八、二八　停戰命令に依り部隊は「ケマピユー」附近に集結、師團の「シヤム」國轉進の為「サルウイン」河渡河作業に任ず。

渡河施設（滑綱渡）を完成、師團の渡河終了後、九月十五日出発「クンヤム」に前進す。

第百二野戰道路隊を以て泰緬國境附近の悪路補修、器材小隊を以て「メメチヨン」

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	徒橋を架設せしめ、十月中旬「チェンマイ」に集結す。
一〇、下旬	第一中隊は「サルウイン」河渡河作業のため、谷口中尉以下十二名を残置し、「チエンマイ」に於て主力に合す。
	谷口小隊は連合軍命令に依り「トング」に転進せるも其の後の状況不明、同じく責戸軍曹以下十九名入院の儘、独立輜重第二連隊に転属、共に緬甸方面軍司令官の指揮に入らしめたる。
一〇、一〇	建築勤務第五十三中隊及第二十八中隊の一部転入す。
一一、二六	南泰へ機動開始十二月三十一日「シヤム」国「ナコンメヨーク」日本軍集結地に到着爾後終戦業務及現地自活作業に従事し待機す。
自 二一、五、一三 至 六、一八	復員の為戦地出発内地上陸
五、一三	連合軍の個別訊問及私物品検査終了後「ナコンナヨーク」出発五月十五日、盤谷到着、五月二十四日、南鳴丸に乗船、翌二十五日蘆州丸に移乗同港出帆
六、一一	浦賀入港検疫終了後
六、一七	上陸、馬堀援護所に収容せらる。
五、一八	復員式並証書授与式挙行
六、一九	十時復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

歴代部隊長名

陸軍中佐　江島常雄
陸軍大佐　小室德太郎
陸軍少佐　山口稔夫

部隊事情精通者

福岡県大牟田市日暇七二九番地　陸軍大尉　桑野恒雄
福岡県嘉穂郡二瀬町伊岐須　同　野見山伯郎
福岡県糸島郡芥屋村大字新町　同　土出甚五
長崎県佐世保市矢峯四五五　陸軍曹長　瀬田万次郎
福岡県三潴郡西牟田村　同　永田倪

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第五十六師団 通信隊略歴

年月日	概要
昭一六、一二、一五	軍令陸甲第八十五号に依り臨時編成下令
一二、二二	編成完結　二三九名
二、一三	屯営出発
二、一五	門司港出発
三、三	一時仏領印度西貢上陸
三、八	西貢出発
三、二五	英領（ビルマ）「ラングーン」上陸
自 三、二六	「トングー」より「サルウイン」河々谷進出作戦、通信隊は通信実施部隊と
至 四、一四	猛焉部隊とに区分前進す。損耗なし。
自 四、一五	「パウサン」より「ラシオ」に向う追撃作戦「ホーポン」560 2FL にて兵一戦病
至 四、二九	死。
自 四、三。	「ラシオ」より怒江「ミイトキーナ」に向う追撃作戦損耗なし
至 五、一五	
自 五、一六	怒江右岸反撃戦及残敵掃蕩戦損耗なし。
至 六、一。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自 六、一二	橄欖寨及騰越南方地区掃蕩戦損耗なし。部隊は六月十一日より芒市に駐留す。
至 七、三	
自 八、一	怒江右岸地区掃蕩及警備　損耗なし。
至 八、三一	
自 九、一	騰越「クンロン」及平戛地域の討伐及警備　十月十一日騰越560 1FLにて兵一戦
至 一一、三一	病死。
自 一二、一	占領地確保並対空戦斗
至 一八、一、三一	
一七、一三、三。	交換所勤務中の兵一爆撃に依り戦死。
自 二、一	甲号潮清討伐　損耗なし
至 三、三一	
四、一	緬甸防衛並次期作戦準備、
九、三〇	
六、三。	芒市560 2FLにて兵一戦病死、
七、三一	兵一南溜教庭に於て戦死
九、二九	兵一猛連患療にて戦病死
自 一〇、一	怒江作戦　損耗なし。
至 一一、三。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
自一八、三、一 至一九、四、二八	「ウ」号支作戦
二四	芒市に於て空中線建柱作業中兵不慮死
自四、二九 至七、五	遠征軍反撃作戦
五、二四	兵一「ミイトキーナ」にて戦死
六、一四	兵二
自七、六 至七、一〇、五	断作戦第一期通信隊は有線二小隊無線一七分隊を展開し、又一部は油業地守備に任ず。本作戦隧越、拉孟は全員戦死「ミイトキーナ」に於ても多大の戦死傷者を出せり。
七、一〇	兵一
七、一五	兵一
七、二八	下士官一
七、二八	兵一
九、二三	兵一
七、二四	兵一
七、三〇	下士官一

芒市附近に於て戦死

「ミイトキーナ」附近に於て戦死

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭一九、九、七　将校一　拉孟にて戦死
九、一四　下士官一、兵一　騰越に於て戦死
九、一七　下士官一　畹町にて戦死
七、一四　兵一
八、七　兵一　平戛附近にて戦病死
八、二一　兵一
七、一五　兵一　「センウイL 560 4FL」にて戦病死
九、一六　兵一　明妙 121 EFL にて戦病死
一〇、二　兵一　芒市附近にて戦病死
「三イトキーナ」附近生死不明者　兵二
計　戦死　将校　一
下士官　三
兵　一七
戦病死　兵　六
生死不明　兵　三

自一九、一〇、六
至一二、二、二八
斷作戦第二期兵団は芒市より畹町附近に転進を開始
兵一　遮放峠にて戦死

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
一一、二八	兵一 「ナンパツカ」560 4FL にて戦病死
一一、三〇	兵一 明妙 121 EFL にて戦病死
一二、三	兵一 畹町 560 2FL にて戦病死
自 一九、一三、二三	斬作戦第三期兵団は畹町附近より「ラシオ」附近に転進を開始す。
至 二、二六	
一、二六	兵一 「ラシオ」121 甲分院にて戦病死
一、二六	兵一 畹町附近にて戦死
一、三二	兵一
二、四	下士官一 560 4FL 「ナムオン」療養にて戦病死
二、三	兵一
二、四	兵一 「ナンパツカ」附近にて戦死
自 二〇、二、二一	斬作戦第四期 兵団はラシオ「附近より「タウンヂー」に転進を開始す。
至 四、九	
四、一	兵一戦死 「カンパイピン」附近相互監視中謀略部隊と交戦に依る。
	兵一生死不明
自 二〇、四、一〇	克作戦第一期通信隊は兵団司令部と共に「タウンヂー」に位置し兵団直轄部隊との有無線連絡に任ず。損耗なし。
至 五、二九	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自 二〇、五、三〇
至 八、一四

克作戦第二期　兵団は鳳集団となり司令部を「ナムパレー」に、戦斗司令所を「モウチ」鉱山に推進す。通信隊は馱馬部隊を「ナムパレー」に通信実施部隊を「モウチ」に推進し、広範囲な集団直轄各部隊との有無線連絡に任ず。

六、五　兵一　「ナムパレー」附近にて銃撃に依り戦死

六、二三　兵一

七、二六　兵一　「ナムパレー」560 4FL　にて戦病死

八、一五　兵一

七、二一　兵一　「バーボン」124 EFL　患療にて戦病死

八、一四　終戦

八、五　終戦後兵団は「ケヤピエー」に集結後泰国「チエンヤイ」に集結を開始す。

自

九、六　「サルウイン」河渡河

九、二三　泰緬国境通過

一〇、三〇　「チエンヤイ」集結

九、二六　下士官一「クンヤム」121 EFL

九、二九　兵一「クンヤム」560 2FL

一〇、二　兵一「メナナヨン」121 EFL

一〇、三　兵一「クンヤム」560 2FL　にて戦病死

2370

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
二〇、一〇、二二	下士官一「チエンヤイ」附近にて戦病死
一〇、二三	兵一「ロンキヨウ」121 EFL
一一、四	兵一同
一一、六	兵一同
自 二〇、二、二七 至 二一	兵団は「チエンヤイ」より「ナコンナヨーク」に集結を開始す。
一一、二七	「チエンヤイ」出発
一二、三一	「ナコンナヨーク」に集結
一一、元	兵一
一二、二	兵一
三、一五	兵一
一、六	兵二「メンホイ」陸軍病院及「チエンヤイ」121 EFL 慈療にて戦病死
二、八	下士官一「ナコンナヨーク」370 FL にて戦病死
二、二〇	下士官一「メンホイ」陸軍病院にて戦病死
歴代部隊長名	少佐 大石良市
部隊事情精通者	長崎県北高来郡小長大字小川原浦小川原浦名 陸軍中尉 吉川敏隆
	佐賀県杵島郡北方町大字大崎又四九六番地 陸軍准尉 安藤正巳

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

輜重兵第五十六聯隊略歴

龍第六七四二部隊　大佐　池田耕一

年月日	概要	摘要
昭一六、一二、二二	編成下令（聯隊主力）	
一七、二、一八	門司出帆	
一七、三、二八	「ラングーン」上陸	
自一七、三、二八 至 四、一四	「サルウイン」河々谷進出作戦	
自一七、四、一五 至 四、二九	「パサウン」より「ラシオ」に向う追撃作戦	
自一七、四、三〇 至一七、五、一五	「ラシオ」より怒江「ミイトキナ」に向う追撃作戦	
自一七、五、一六 至一七、六、一〇	怒江右岸反撃戦及残敵掃蕩戦	
自一七、六、二一 至 七、三一	敏饒衆及騰越南方地区の掃蕩並警備	
自一七、八、一 八、三一	怒江右岸地区掃蕩並警備	

主力は福岡県長崎県佐賀県なり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要	摘要
昭一七、九、一	騰越「クンロンし及平戛地域の討伐並警備	編成地
至 一一、三〇		久留米
自 一二、一	占領地確保対空戦斗	
至一八、一、三一		
自 二、一	甲号肅清討伐	
至 三、三、三〇		
自 四、一	緬甸防衛並次期作戦準備	
至 九、三〇		
自 一〇、一	怒江作戦	
至 一一、三〇		
自 一二、一	「ウ」号支作戦	
至一九、四、二八		
自 四、二九	遠征軍反撃作戦	
至 七、五		
自 七、六	断作戦第一期	
至 一〇、五		
自 一〇、六	断作戦第二期	
至 一二、三一		

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要	摘要
昭一九、一二、二二 二〇、二、二〇	断作戦第三期	
自二、二二 至四、九	断作戦第四期	
自四、一〇、 至五、二九	克作戦第一期	
自五、三〇、 至八、一四	克作戦第二期	
昭一七、三、二八 四、二九	「サルウイン」河々谷進出作戦次で「ホーポン」より「ラシオ」に向う追撃作戦に参加一木作戦間自動車二ケ中隊を臨時編成し師団主力の兵力輸送及補給輸送を実施す	
自一六、一〇、二三 至一七、四、三〇	昭和十八年十月二十三日輜重兵第五十六聯隊第二中隊編成下令坂口支隊に編入「ダバオ」上陸南部比島作戦次で「タラカン」作戦次で「パリックパパン」作戦次で「パンゼルマン」作戦次で「ジャワ」攻略作戦に参加三月三十一日「バタビヤ」出帆	
四、二〇、	「ラシオ」にて輜重兵第五十六聯隊主力に追及す	
自四、三〇、 至六、一〇	「ラシオ」より怒江「ミイトキナ」に向う追撃作戦及怒江右岸反撃戦並残敵掃蕩戦に参加師団に対する補給輸送兵力輸送	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	「ラシオ」警備を実施す
昭一七、六、一二	樹欄察及騰越南方地区作戦及怒江右岸地区作戦に参加し補給輸送及「ラシオ」
至 八、三一	警備を実施す
自 九、一	騰越「クンロン」及平戛地区作戦並警備対空戦斗に参加
至一八、一、三一	55TS 59TS 61TS 101TS 277TS を併せ指揮し、補給輸送及「ラシオ」警備を実施す 本期間より敵機の跳梁増加せり
自 二、一	甲号鼎請討伐に参加し師団に対する輸送補給援護物資の後送を行うと共に
至 三、三一	「ラシオ」警備を実施す
自 四、一	緬甸防衛並次期作戦準備に参加依然補給輸送及援護物資の後送に任ずると共に
至 九、三〇	「ラシオ」警備、軍政、兵站業務に任ず
自 一〇、一	怒江作戦に対する輸送に任ずると共に「ラシオ」警備、軍政
至 一一、三〇	兵站業務に任ず
自 一二、一	「ウ」号支作戦に対する補給輸送及「ラシオ」警備にを実施す
至一九、四、二八	
自 四、二九	遠征軍反撃作戦に対する補給輸送及「ラシオ」警備を実施す
至 七、五	（61TS 持設 19 21 ら併せ指揮す）
自 七、六	断作戦第一期に対する補給輸送に任ず
至 一〇、五	八月末「ラシオ」地区警備を昆集団（第三十三軍に移管す）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一九、一〇、六	断作戦第二期に対する補給輸送に任ず
至 一二、二二	
自 一二、二三	断作戦第三期に対する補給輸送を強行す
至二〇、二、二〇	
自 二、二二	断作戦第四期の補給並懸着の後送及軍需品の後方整理輸送に任ず
至 四、九	
自 四、一〇	克作戦第一期、軍後方部隊の大部を指揮し交通確保に任ずると共に後方整理輸送に続行す
至 五、二九	
自 五、三〇	克作戦第二期、6/5特設品15 19 21を併せ指揮代然自動車約六十輌を製作兵団の転進輸送後方整理、公路の確保に任ず
至 八、一四	
	聯隊は九月六日以降「ケマピス」出発患者及軍需品の後送を実施しつゝ「チエンマイ」集結地に前進「クンヤム」に於て代然自動車部隊を残置す
	十月六日「クンヤム」出発「メイチヨン」を経て十月十九日「バンカツト」到着地区司令部及武装解除業務に従事す
	十月末以降第三中隊を兵団直轄たらしむると共に十日輜重兵第三十一聯隊第二中隊及第十八師団象隊を隷下に入らしめらる
	十一月二十六日「チエンマイ」出発南巻に機動十二月三十一日以降

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	「ナコンナヨーク」集結地にありて自活作業及地区司令部業務に任ず。 昭和二十一年「ナコンナヨーク」出発「プラチンブリ」を経て「バンコック」に到り五月二十五日「国府」及「響」に乗船六月十二日浦賀上陸十四日復員完結す。其の部隊の経歴中特異と認められる事項等 特記事項なし

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第五十六師団兵器勤務隊略歴

年月日	概要
昭一六、一一、一五	軍令陸甲第八五号に依り編成下令
一六、一二、二三	久留米戦車第一聯隊に於て第五十六師団兵器勤務隊の編成を完結す
二二	陸軍中尉森友記第五十六師団兵器勤務隊長に補せらる
一七、二、一七	門司港出発
三、五	西貢上陸
自 三、五	西貢に於て待機
至 三、九	
三、九	西貢出発
三、二六	菊貢上陸
自 四上旬	「トニガー」東方山系より「タレンン」「シャンン」地区を経て「ミイトキイナ」
至 五上旬	及怒江の線に向う前進作戦に参加し兵器修理並補給業務に任ず
自 五上旬	
至 五下旬	「バーモ」に在りて兵器修理並補給業務に任ず
自 五下旬	雲南省畹町に在りて兵器修理並補給業務に任ず
至 一三中旬	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一七、一二、中旬	雲南省芒市に在りて兵器修理並補給作戦員（主要なるもの応用舟同機舟一〇〇隻、手榴弾一五、〇〇〇盟式トーチカ三五〇試製破壊筒二〇〇）製作に任ず
一九、一〇、中旬	
自一八、一〇、上旬	德力少尉以下三十名第一次怒江作戦に参加し兵器修理並に補給に任ず
至 一一、上旬	
一一、三	応用舟同機舟製作整備の功績に対し兵団長より表彰状を授与せらる
自一九、五、上旬	圓田曹長以下十五名遠征軍反撃作戦に参加兵器修理並補給に任ず
至 六、中旬	
自 一〇、中旬	雲南省芒市より北「シヤン」州に向う撤退作戦に参加し兵器修理補給に任ず
至二〇、一、下旬	
一九、一三、二八	手榴弾盟式「トーチカ」製作並整備に対し兵団長より賞詞を授与せらる
自二〇、二、上旬	北「シヤン」州より「カレン」州に向う撤退作戦に参加し兵器修理並代燃自動
至 八、一四	車（二五輛）製作整備に任ず
四、二九	代燃自動車製作に対し兵団長より賞詞を授与せらる
八、一四	終戦に関する詔書喚発せらる同日「カレン」州「ナンバレー」附近に於て戦斗行動停止同地に待機
八、二三	「ナンバレー」出発「ケマピユー」「クンヤム」を経同年十月二十二日「シヤム」国「チエンマイ」に集結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、一〇、一〇	「ビルマ」方面軍野戦自動車廠附陸軍少佐大敷　傅兵器勤務隊長に補せらる
一〇、	「ビルマ」方面軍野戦自動車廠附陸軍大尉、藤谷傅衛以下二百七三名及「ビルマ」方面軍野戦兵器廠附陸軍大尉、中島忠三以下百六十名当隊に転属同年十一月三日編成完結す
二、一五	逐次南発えの移動を開始同年十二月十九日部隊主力は「ナコンナヨーク」に集結す
二、三、一五	陸軍大尉　中島忠三以下百三十四名（旧ビルマ方面軍野戦兵器廠関係者）第四師団に転属す
五、一四	内地帰還のため「ナコンナヨーク」集結地出発
一六	「バンコック」出発
六、三	浦賀上陸
六	復員完結解散
部隊事情精通者	
熊本県玉名郡石貫村大字石貫四三二七　森　友記（兵器勤務隊長）　自一六、一二、三、至二〇、一〇、一〇、	
福岡県朝倉郡上秋月村大字秋月二五八九　森田幸一郎（同　人事掛）　自二〇、一〇、一〇、至二二、六、六、	
福岡県大牟田市岬　中村徳蔵方　大敷　傅（兵器勤務隊長）	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	愛知県葉栗郡浅井町伊藤朝吉方 長谷川敏之　自二〇、一〇、一〇　兵選勤務隊副官 至二、六、六　前所属ビルマ方面軍野戦自動車庁西北支庁附 愛知県知多郡小鈴谷村上野間 大崎丁巳郎　前所属ビルマ方面軍野戦自動車庁第二移動修理班長 大阪市東区玉堀町五四〇佐々木方 大橋　昇　同人事係 三重県員弁郡久米村大字中上一七四 藤谷傳衛　前所属ビルマ方面軍野戦自動車庁西北支庁長 岐阜県可児郡御山高町田中方 渡辺徳三郎　同　人事係 歴代部隊長 1　陸軍大尉　森　友記 2　陸軍少佐　大　敷　傳

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第五十六師団衛生隊略歴

隊長　原田茜太郎

年月日	概要
昭、一六、一一、五	編成下令
一二、二三	久留米衛戍地に於て編成完結
一二、二三	陸軍少佐安部和荘隊長に補せらる
一七、二、一四	門司港出帆
三、三	西貢上陸
自　五	西貢に於て待期
至　八	
八	西貢港出帆
二六	蘭貢上陸
自　四、上旬	「トングー」東方山系より「カレンニ」「シヤンニ」州地区を経て「ミイトキーナ」
至　六、上旬	及怒江の線に向う前進師団主力と共に「トングー」より東北進せるも「ビルマ」遠征中国軍（団隊号不明）の若干の抵抗に会し部隊はその救護に任ず（戦病死兵　二）
三〇	安部少佐師団司令部転補の為陸軍少佐延岡三郎衛生隊長に補せらる

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一七、六、上旬 至一九、四、二八	雲南地区各討伐掃蕩の為その救護に任ず（戦死下士官兵一〇、戦病死兵　九）
七、六	延岡少佐病気に依り内地還送の為陸軍少佐　黒田強一隊長に補せらる
自一九、五、上旬 至二〇、一、上旬	雲南地区より北「シヤンレ」州に向う撤退作戦に於て主力と共に「北シヤンレ」州に撤退途中其の救護に任ず（戦死将校二　准士官九　下士官兵三九 戦病死下士官兵一三　行方不明兵一　不慮死兵一）
一九	黒田少佐病気に依り内地還送のため陸軍少佐　原田藤太郎隊長に補せらる
自　二、上旬 至　八、一四	北「シヤンレ」州より「カレンレ」州に向う撤退作戦師団第一線部隊の救護に任じつゝ逐事「ロイコウレ」周辺に集結中終戦となる（戦死将校二　准士官一 下士官兵五七 戦病死下士官兵九）
自　八、二〇 至　現在	「ロイコウレ」出発「チマピユーレ」より「サルウインレ」河を渡河泰緬国境通過「チエンマイレ」を経て「ナコンナヨーク」集結爾後現在に至る （戦病死将校一　下士官兵一六）

歴代部隊長名

陸軍少佐　安部和荘

陸軍少佐　延岡三郎

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	陸軍中佐　黒田強一
	陸軍少佐　原田萬太郎
	部隊事情精通者
	住所　福岡県三猪郡大塚村壬溝四〇〇四　陸軍大尉　堤　忠雄
	福岡県企救郡東谷村大字毋原六八六　陸軍大尉　木村　戸
	福岡県三井郡宮原陣村大字若松一九九九　陸軍大尉　関　竣
	福岡県糸島周船寺町大字周船寺三八六の一　陸軍中尉　久保喜之助
	福岡県福岡市西養巴町一九　陸軍中尉　坂本正雄
	福岡県遠賀郡歌町字吉田日産高松一鉱紅葉社宅　軍医大尉　榮　吾郎
	神奈川県三浦郡葉山町堀の内六五八　陸軍准尉　戸畑義祐
	福岡県宗像郡勝浦村二九七三　陸軍准尉　新海藤介
	福岡県築紫郡大野村仲島一一〇　陸軍准尉　村上敏雄
	福岡県嘉穂郡山田町山田一四八五　衛生准尉　山田橋太郎

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	福岡県門司市幸町四丁目一六六六　陸軍曹長　中村清利
	福岡県小倉市大字山本　六九〇　陸軍曹長　岡村源亀
	長崎県西彼杵大串村　二六八九　陸軍曹長　北川茂吉
	長崎県北松浦郡手戸町　二二七　陸軍曹長　久家利夫

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第五十六師団第一野戦病院部隊略歴

病院長　鳥井作夫

年月日	概要
昭一六、八、一〇	編成下令
二七	久留米野砲兵第五十六聯隊に於て編成完結
一七、四、二〇	緬甸蘭貢に上陸
自 二〇	蘭貢ヲラシオ間に於ける戦斗参加
至 三〇	
自 五、一	ヲラシオ～怒江及ゝミートキーナ～に向う追撃作戦参加
至 一五	
自 一六	怒江右岸反撃戦及残敵掃蕩戦参加五月二十四日龍陵に於て兵一名戦死
至 六、一〇	五月中兵一名緬甸国の士官学校に派遣せられたるまゝ其の後消息不明
自 一二	撤収及騰起南方地区掃蕩及警備
至 七、三一	
自 八、一	怒江右岸地区掃蕩及警備
至 三一	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一七、九、一	騰越「クンロン」平原地域の討伐及警備
至一二、三〇	
自一三、一	占領地確保及対空戦斗参加一月十四日明朔に於て兵一名戦病死
至一八、一、三〇	
自二、一	甲号粛正討伐参加
至三、三	
自四、一	緬甸防衛並に次期作戦準備
至九、三〇	
自一〇、一	怒江作戦参加
至一一、三〇	
自一二、一	「ウレ」号支作戦参加　三月将校一名兵一名戦病にて後送せられたるも其の後
至一九、四、二八	消息不明（将校は「プノンペン」より基隆に後送したる旨通報あり）
自二九	雲南遠征軍及撃作戦参加七月五日龍陵鞍型山に於て将校一名戦死
至七、五	
自六	新作戦第一期参加七月十四日龍陵に於て兵一名戦病死八月四日緬甸「ナンポウ」
至一〇、五	に於て兵二名戦死八月十九日龍陵に於て兵二名戦死九月十四日騰越守備隊五碎
	司地に野戦病院を開設し居りたる部隊主力（病院長以下将校一六名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭	准士官一名下士官三五名兵八四名計一三六名）は昭和二十年四月一日全員戦死と認定せらる九月十四日兵二名戦傷兵一名戦病にて龍陵より後送せられ其の後消息不明九月二十三日龍陵に於て兵一名戦傷死
自一九、一〇、六	断作戦第二期参加
至 一二、二二	十月十八日 「ラシオ」に於て兵一名戦傷死兵一名戦病死
	十一月七日 芒市に於て兵一名戦死
	十一月十七日「センウイ」に於て兵一名戦死
	十一月二十一日 「ラシオ」に於て兵一名戦病死
	十一月二十二日遮放に於て兵一名戦傷死
	十一月三十日 「ラシオ」に於て兵一名戦病死
	十二月十七日 「ナムオン」に於て下士官一名戦病死
自 一二、二二	断作戦第三期参加
至二〇、二、二〇	二月一日 下士官一名遺骨宰領者として内地に出張内地上陸消息不明
	二月二日 「ナンカイ」に於て兵一名戦傷死
	二月十一日 「ナムオン」に於て兵一名戦死
自 二、二二	断作戦第四期参加
至 四、九	三月三日 「ナーモン」に於て下士官一名戦死

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三月二十七日	「モンケ」に於て下士官一名戦死
自 四、一〇	克作戦第一期参加
至 五、二九	
自 五、三	克作戦第二期参加
至 八、一四	
	七月二十六日「シャムレ」国「クンユアムレ」に於て兵一名戦傷死
一四	大東亜戦争終戦
九、二五	集結のため泰緬国境通過
二九	「クンユアムレ」に於て下士官一名戦病死
三、四	「メナチヨン」に於て兵一名戦病死
六	「チエンマイ」に於て兵一名戦病死
二、一、二八	「チエンマイ」に於て兵一名戦病死
四、四	「ナコンナヨーケ」に於て下士官一名戦病死
五、二六	「バンコック」出帆
六、三	浦賀上陸
六	復員完結

歴代部隊長名

軍医少佐　水之江　久　自 昭、一六、一〇、二七　至 一七、一一、三〇

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	軍医少佐　五十川秀夫　自昭一一、七、一二、 軍医大尉　鳥居作夫　至一一、九、一一、 二〇、六、一四、 二一、六、六
	部隊事情精通者 愛知県喜多郡長浜町二丁目　軍医大尉　鳥居作夫 福岡県鞍手郡山口村大字山口二五五八　軍医中尉　小方文哉 長野県東筑摩郡宮村與山郷一〇九六　衛生准尉　五反田米一

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第五十六師団第二野戦病院部隊略歴

年月日	概要
昭一六、一二、一七、二	編成完結 内地出発
自 三	緬甸上陸爾後第一半部に分割進攻作戦に参加
自 四、五	「パサウン」より「ラシオ」に向う追撃作戦参加中「シャン」洲「ホーポン」
至 二九	東北約八粁附近にて第一半部兵一名戦死
六、	第一半部及同年五月第二半部中華民国雲南省に進攻
自 一八、一二、	「ウ」号支作戦間第二半部雲芒市病院開設中敵機の銃撃により兵二負傷
至 一九、四、六	
自 一九、七、一〇	第二半部第一半部に合流 断作戦オ一期間オ二半部雲南省芒市に病院開設中飛行機の爆撃により将校二
至 一〇、五	下士官二兵三戦死 同期間オ一半部雲南省畹町に病院開設中下士官二兵一戦死
自 一〇、六	断作戦第二期間畹町西方四粁附近に於て他部隊に配属中兵一名戦死
至 一二、二二	同期間兵一緬甸「シャン」洲「ムセ」附近の戦斗にて負傷入院
一二、	緬甸に転進
自 一二、二三	断作戦第三期間「シャン」洲「ナムトウ」に於て病院開設中砲撃により兵一名
至 二〇、二、二〇	戦死同期間「シャン」洲「ナンバッカ」附近に於て病院開設中砲撃により

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
自 二、二二	兵一名戦死病院長負傷
至 四、九	断作戦第四期中「シャンレ」洲「ナツチレ」に於て病院開設中敵機の爆撃により
	下士官一名兵一名戦死下士官二名負傷入院内一名は死亡す
自 一〇	克作戦第一期間「シャンレ」洲「ロイコウレ」北方四粁附近に於て敵機の銃撃によ
至 五、二九	り下士官一名兵一名戦死将校一名負傷
	同期間「シャンレ」洲「ナンメイコンレ」西方三七九九高地附近の戦斗に於て他部
	隊配属中兵一名戦死
一二〇、九	羅羅に転進
二二、	「クンヤムレ」病院開設中山口大尉以下八二名（附表第一）病院長指揮を脱す
二二、五、二六	泰国出発
六、一二	内地帰還
一四	復員完結（人員一五五名）
	復員時に於ける死歿者及調査表附表第二の如し
	歴代部隊長名　軍医少佐　吉永義雄
	軍医少佐　三浦豊
	部隊準備精通者
	本籍地　福岡県三潴郡城島町大字城島六四の　軍医大尉　相川春雄

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

現住所　福岡県久留米市東町一五七
本籍地　佐賀県東松浦郡唐津村大字養母田六八〇
現住所　同　軍医大尉　桃崎正治
本籍地　福岡県田川郡採銅所村一七九八
現住所　同　衛生中尉　林正直
本籍地　福岡県久留米市荘島松ヶ枝町二丁目四九二
現住所　同　衛生中尉　内藤義光
本籍地　佐賀県神崎郡境野村川崎七一八
現住所　同　衛生准尉　石橋久二
本籍地　沖縄県宮古郡平良町字西中宗根一二三
現住所　同　衛生准尉　下地啓基
本籍地　福岡県朝倉郡高木村大字佐田一九三〇
現住所　同　衛生准尉　阿部繁幸
本籍地　福岡県糸原郡田島村大字多摩七六四
現住所　同　衛生軍曹　藤崎広敏

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第五十六師団防疫給水部隊略歴

年月日	概要
昭、一六、一二、二二	編成完結（定員一九六名　乗用車一　貨車　二〇　沢水械車　四）
一七、二、一三	屯営出発（久留米西部第五一部隊）
二、一六	門司出帆
三、六	佛印西貢一時上陸
一〇	同地出帆
三、二八	緬甸蘭貢上陸
自　三、二八	「トングー」より「バサウン」に向う「サルウイン」河々谷進出作戦に参加
至　四、一四	
三、三〇	「トングー」に於て戦死一名
自　四、一五	「バサウン」より「ラシオ」に向う追撃作戦に参加
至　二九	
自　三〇	「ラシオ」より怒江「ミイトキーナ」に向う追撃作戦に参加
至　五、一五	
自　一七、一五	怒江右岸反撃作戦及残敵掃蕩戦に参加

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一七、六、一〇	
自 一二	撤収察及騰越南方地区の掃蕩に参加
至 七、三一	
自 八、一	
至 三一	怒江右岸地区掃蕩及警備に参加
自 九、一	騰越「タンロンレ」及平戛地区の討伐並警備に参加
至 一一、三一	
自 一二、一	占領地確保並に対空戦斗に参加
至 一八、一二	
自 二、一	甲号粛清討伐に参加
至 三、三一	
自 四、一	緬甸防衛並に次期作戦準備に参加
至 九、三〇	
自 一〇、一	怒江作戦に参加
至 一一、三〇	
自 一二、一	「ウレ」号支作戦に参加
至 一九、四、一八	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭四、二九	遠征軍反撃作戦に参加同期間戦死省略
至七、五	
自六	断作戦第一期に参加同期間戦病死省略
至一〇、五	
自一〇、六	断作戦第二期に参加
至一二、二二	
自一〇、一五	緬甸国蘭貢に於て戦病死一
自一二、二二	断作戦第三期に参加
至二〇、二、二〇	
一九、一二、二八	緬甸国瞰町附近に於て戦死一
二〇、一、七	緬甸国ナムオンレ附近に於て戦病死一
一、二五	緬甸国ムンタウレに於て戦死一
二九	緬甸国マンサレ西南方約四粁附近に於て戦死二
二、二三	緬甸国ナムサンレ南方約二粁附近に於て戦死一
自二、二	断作戦第四期に参加
至四、九	
自一〇	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

至 五、二九 克作戦第一期に参加

自 三〇 克作戦第二期に参加

至 八、一四 終戦業務に従事

一五 蒙古国境通過

九、一三 蒙古国境に於て戦病死一

一三 「シャムト」国「チエンマイ」に於て戦病死一

一〇、二七 「シャム」国「アンポパイ」に於て戦病死一

三五 「ウンサム」に於て下士官一兵五（満鶴）に転属す

一二、一〇 部隊主力は「ナヨンナヨーク」

一三、八 盤谷出帆

三一、五、二六 南貿上陸

六、一三 復員完結 復員人員 一三四名 主復員人員 五名（内四名盤谷検疫所要員 一名は残務整理のため）

一四 歴代部隊長 軍医少佐 市村勢夫

部隊事情精通者

福岡県三井郡三国村字三沢一九一三（副官）軍医大尉 倉岡孝之

福岡県飯塚市吉原町四三〇 （主計）主計中尉 土生博之

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	佐賀県藤津郡多良村大字多良上九八四 （人事係）衛生進尉　吉田好雄 長崎県北松浦郡佐々町古川 （功績係）准尉　広瀬秀雄 長崎県北高来郡小長井村大字井崎井崎名二三三六の一 （功績係）衛生曹長　中村亨 長崎県北松浦郡吉井村大字福井一〇五〇の二 （主計）主計軍曹　磯本一雄

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp